

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			社会科学概論	法や行政制度、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生について理解を深める。	1 前期	32	2	○			○				
2	○			自然科学概論	高校までの理科に関する基礎知識を確認、補強する。	1 前期	32	2	○			○				
3	○			人文科学	医療に関連する語彙・表現等を理解するとともに英語によるコミュニケーションの要領を習得し、国際的医療人として必要な語学（英語）能力の基礎を確立する。	1 前期	32	2	○			○				
4	○			身体と科学	身体のメカニズムを理解し、身体運動の骨・筋・関節の働き、体力など身体活動の概要を理解する。	1 前期	32	2	○			○		○		
5	○			人間学Ⅰ	哲学とは、何か。何を対象に研究しているものか。そして、哲学は私たちにどう役立つものなのか学ぶ。	1 前期	32	2	○			○				
6	○			人間学Ⅱ	生命倫理学全体を俯瞰的に概括したのち、各論を個別に検証する。それぞれの問題の構造を分析し、現状を理解する。さらに、問題解決への道筋についても考える。	1 後期	32	2	○			○				
7	○			人間学Ⅲ	医療人として患者が抱える医学的問題だけでなく、心理的問題や社会的背景も包括する全人的医療について理解する。良好な医療コミュニケーションの臨床的意義、問題解決に至るまで臨床上で何が必要かを考え、患者とのラポールの形成から情報収集、基本的態度や技法についてを身に付けることを目標とする。	1 後期	32	2	○			○				
8	○			解剖学Ⅰ	骨格系について、人体を構成する全ての骨とその連結について詳細に学んでいく。	1 前期	32	2	○			○				
9	○			解剖学Ⅱ	全身の筋肉の名称と構造、存在部位、作用、起始停止、神経支配などを学ぶ。	1 後期	32	2	○			○				

80	○	柔道整復臨床 実習	附属の臨床実習施設やその他の外部臨床施設で、実際の臨床の様子を見学または施術補助を行い、柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者として責任と自覚を養うことを目標とする。	2 通 年 ・ 3 前 期	180	4				○	○	○			
合計					80科目	科目	134 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 必修・選択必修の全授業科目を修得		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 授業時数の3分の2以上の出席とする		1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。